

## 欧州紀行(1) サウサンプトン

2023-6-16 池田良穂

コロナ禍で海外には出ることができない 3 年間も終わり、各地のクルーズが急速に復活している様子を肌身を感じてみたいと思い、昨年末のシンガポール発着クルーズに続き、欧州でのクルーズに乗船することにしました。どこの発着クルーズにするか、だいぶ迷いましたが、40 年余りにドイツに長期滞在した時に乗船したノルウェーのフィヨルドクルーズを再体験することにしました。ドイツ発着、イギリス発着などいろいろとクルーズはありましたが、イギリスのサウサンプトン発着の「アンセム・オブ・ザ・シーズ」に乗船することにしました。RCI の 17 万総トン型「クァンタム」クラスの第 2 船で、主に欧州水域でのクルーズをしています。

乗船の 3 日前に、ロンドン空港に到着。サウサンプトンは、かつてはロンドンの外港と位置付けられて、北米航路の定期客船の発着港で、「タイタニック」も「クイーン・エリザベス」もここから出航しました。有名な定期客船用のオーシャンターミナルの埠頭には、客船の出港時にはロンドンからの直行列車が運行されていたといひます。いまでは、そのレールも撤去されています。

私が最初にイギリスを訪れたのはかれこれ 50 年近く前の学生時代で、フランスのルアーブル港から、6000 総トンのカーフェリー「ドラゴン」でサウサンプトン港に到着しました。その後、IMO での船舶の損傷時復原性規則の改定に携わった 15 年間にも、幾度か、会議の前後の週末をサウサンプトン、ポーツマス、ドーバーなどで船を眺めて過ごしました。

サウサンプトンは、イギリス海峡に面したソレント海と呼ばれる入り江の奥に位置しており、入口にはワイト島があり、ポーツマスもソレント海の入口近くにあります。

サウサンプトン港に出入港する船のシップウォッチングに最適なのは、サウサンプトンの対岸にあるハイスという小さな町で、サウサンプトンとはハイスフェリーという小さな渡し舟が運航されています。その近くにボートハウスというホテルがあり、3 階の部屋のベランダからソレント海が見渡せることが分かりました。乗船前の 2 泊を、ここで過ごすことにしました。

屋根裏部屋のような 3 階の 1 室だけが、シップウォッチングに最適だったので、そこをなんとか予約することができました。まずは、そのホテルからのシップウォッチングの成果をご紹介します。



ホテルはマリーナを中心にして開発された地区の真ん中にありました。ベランダからの景色です。



ワイト島とサウサンプトン港を結ぶレッドファンネルのカーフェリー「Red Eagle」です

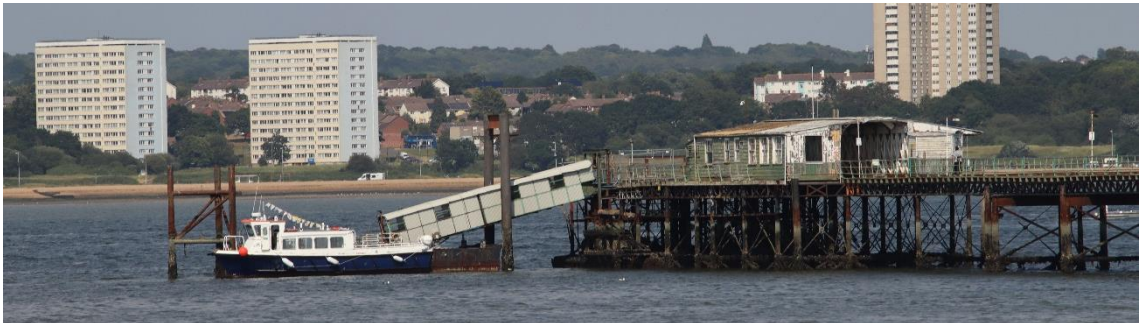


ワイト島のサウサンプトンを結ぶレッド・ファンネルの高速旅客船「Red Jet」です。





ハイスフェリーの桟橋には旅客を運搬する列車が運行されています。右からソレント海の出口方向、左手にサウサンプトン港があります。



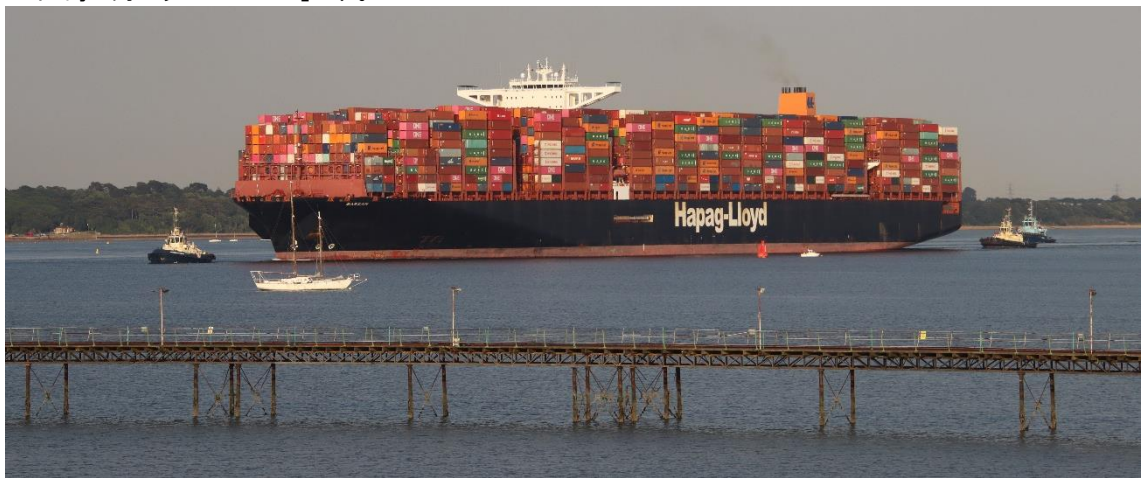
ハイスフェリーの乗り場は、長い桟橋の先端にあります。大きな潮汐に対応するために、長い桟橋を造り、その上を旅客運搬用のトロック列車が走っています。徒歩でも移動は可能です。



レッド・ファンネル社の貨物フェリー「Red Kestrel」(左)と、ソレント海のデイクルーズ船「Ocean Scene」(右)です。



ワイト島に向かう「Red Falcon」です。



ハバクロイド社の大型コンテナ船「Barzan」です。



朝焼けの中入港する自動車運搬船「Höegh Target」です。かつての定期客船埠頭周辺は、自動車の積出港になっており、大型の PCC、PCTC が使っています。クルーズ客船のターミナルも併設されており、今ではクルーズ客と自動車がメインの埠頭になっています。